

服装評定における個人間と個人内の違い

○福井 典代* 宇野 保子** 中川 敦子*³ 藤原 康晴*
(*鳴門教育大, **中国短大, *³香川短大)

【目的】前報では、8種の各服装に対する評定をSD尺度を用い、1週間の間隔をおいて2回測定し、服装に対する評定の個人による再現性の違いとその評定値への影響を分析した。本報では、前報の測定データを用い、同一評定者によるその2回の評定値間の違い（評定者内のバラツキ）と各評定者による評定の違い（評定者間のバラツキ）を比較検討した。

【方法】実験に用いた服装の選定、評定の手順、評定者等は前報記載のとおりである。なお、評定尺度についても前報と同じであり、「ゆったりした／きゅうくつ」「しなやか／はりのある」など主として衣服の形態を評定する尺度、「派手／地味」「モダン／クラシック」など主としてイメージを評定する尺度、「着たい／着たくない」の服装の総合的な評定尺度を用いている。

評定者間のバラツキとして、1回目の評定値の標準偏差と2回目の評定値の標準偏差の平均値をその指標として用いた。評定者内のバラツキは、各評定者別に1回目と2回目の評定値の差の絶対値を求め、その評定者平均を算出してその指標とした。

【結果】評定者間のバラツキと評定者内のバラツキの違いを各評定尺度別あるいは各服装別に算出した。各評定尺度別に両バラツキの違いを算出した結果、いずれの尺度においても評定者間のバラツキが評定者内のバラツキよりも大きく、総合評定尺度「着たい／着たくない」においてもっとも大きな違いがみられた。さらに、各服装別に両バラツキの違いを算出したところ、提示服装によってあまり大きな差異は認められなかった。

前報：日本家政学会誌，50(10)，1071～1077(1999)